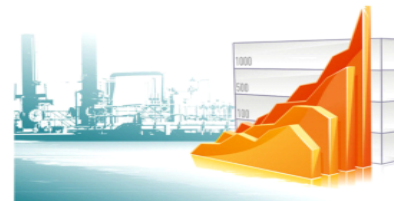


# 岐阜県経済の現状



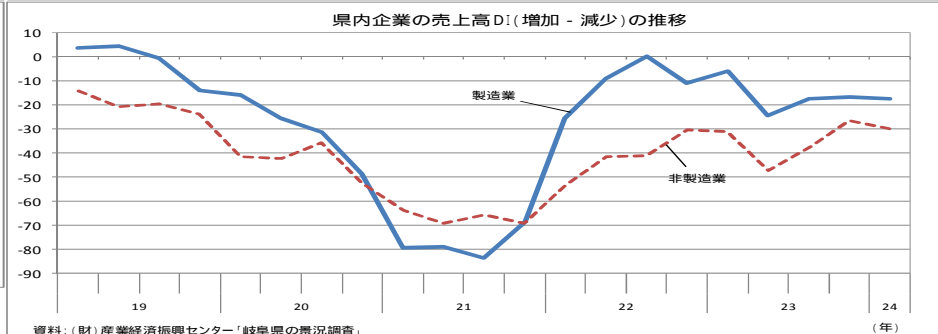
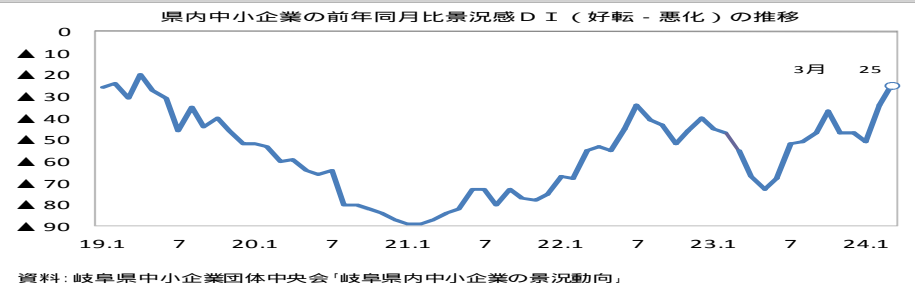
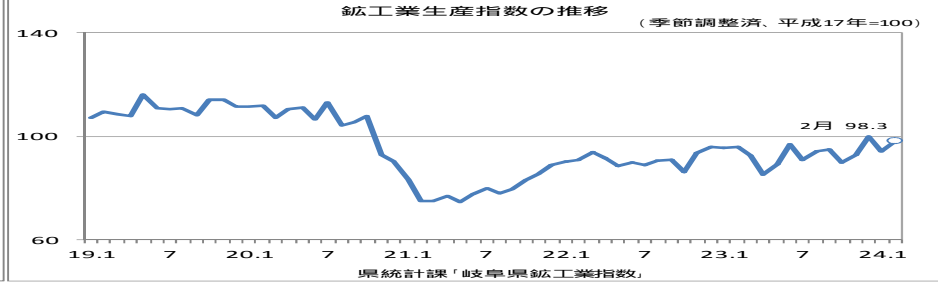
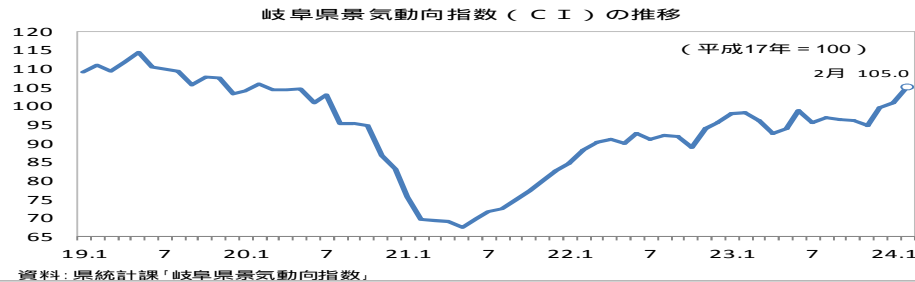
平成24年5月  
岐阜県商工労働部

企業等へのヒアリングは4月25日～4月27日を中心に実施しています。

# 景気動向・製造業

2月の景気動向指数(CI、一致指数)は105.0と前月から4.1ポイント上昇。県内中小企業の景況感は、4年10か月ぶりの水準に。

2月の鉱工業生産指数は、4.2%増の98.3と上昇に転じた。製造業、非製造業の売上げはほぼ横ばい。



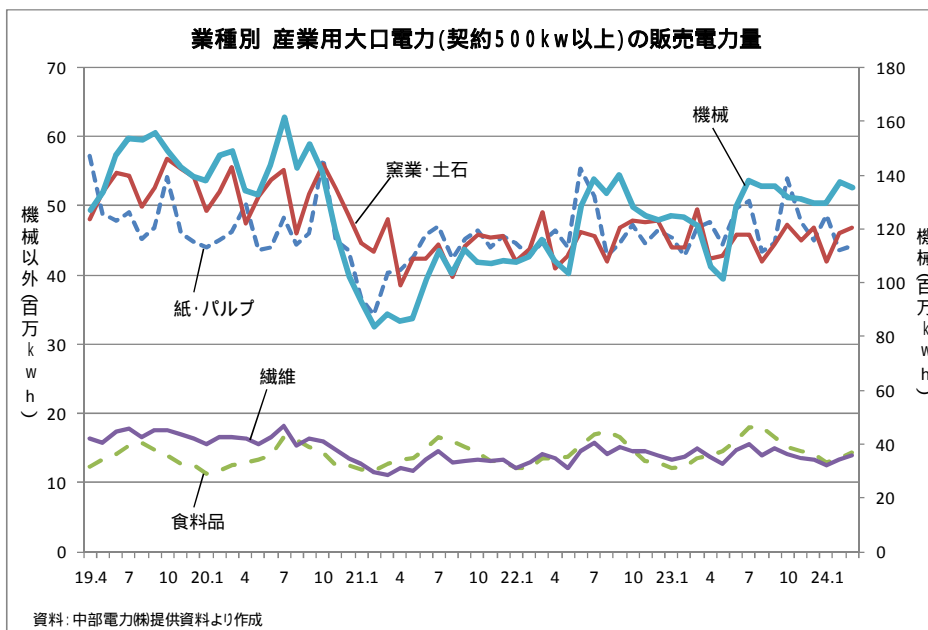
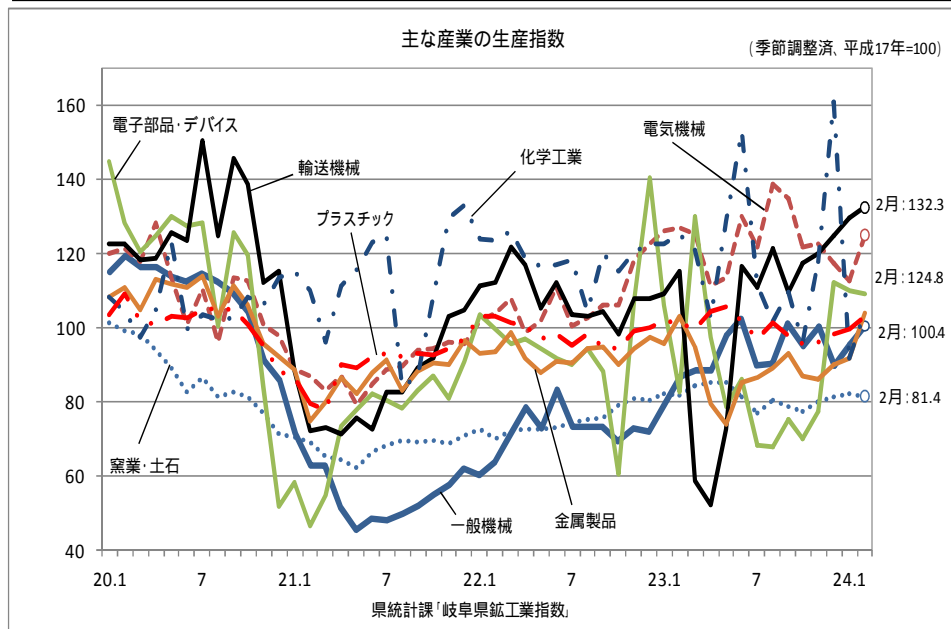
## 現場の動き

売上はピーク時の110%程度で増産基調が続く。当面は同様の受注状況を見込む。  
 生産能力の80%前後の稼働率で計画通りに進んでいる。今後もコンスタントな受注となる見込み。  
 出荷量が過去最高となった3月に引き続き4月も好調。ハイブリッド車の需要増やエコカー減税の影響が大きい。  
 MRJの納入延期の発表については、大きな影響はない。  
 売上について、4月以降は3月よりも幾分減少する見込み。ハイブリッド車を手掛けていないため、エコカー補助金の追い風がない。  
 現在売れ筋の小型車や軽自動車の扱いがなく、リーマンショック以降厳しい状況が続いている。  
 中国の引き締めの影響が大きく、当初計画を割り込んでいる。(以上、自動車用部品)  
 売上はピーク時の70%水準を維持しているが、先月までの上向き傾向は不透明な状況となってきた。(電気機械)  
 売上はピーク時並の水準で横ばいだが、僅かに弱含み。自動車生産は復調しているが、コスト削減や海外調達の影響がますます強くなることを考えると、今後も横ばい程度ではないか。(非鉄金属)  
 新型ハイブリッド車アクアの売れ行きが順調なことが影響し、出荷量は引き続き好調であり、2%増となる見込み。(金属製品)  
 自動車関係部品については、震災前の水準と比べて140%。7月までは好調に推移していくと思われる。  
 2月以降、半導体と自動車関連は徐々に回復基調にあると感じている。(以上、プラスチック)

## 製造業 - 2 (業種別)

2月の生産指数は、上昇基調にある輸送用機械や電気機械を中心に幅広い業種で上昇。

3月の工場向け販売電力量は、ほとんどの産業で減少したものの、構成比の大きな機械は昨年夏以降、高い水準を維持している。



### 現場の動き

急に暖くなったことから、夏物の動きが活発になり受注が増加している。売上は一昨年レベルに回復した。

中国の人件費高騰が著しいため、東南アジアへ生産設備のシフトを進めている。(以上、アパレル)

例年、3～4月は受注が増える時期だが、今年の場合はよくない。

別の地域では、大手電気店、飲料メーカー、化粧品メーカー、外食産業等からの受注が好調の様子。(以上、陶磁器)

ゴールデンウィーク前でアウトドアシーズンを前にナイフなどの注文は増えているが、季節的なものであり、全体としては横ばいではないか。(刃物)

景気が悪いので、当社のもやしは売上が伸びている。主力製品も着実に消費者に普及されており、景気悪化の影響は感じられない。原油価格の高騰によりパックや輸送費が上昇しており、原材料の高騰と重なって、非常に厳しい。

生産量の減少はないものの伸びのない状態が続いている。今後は新製品の販売ラッシュを控え増産となる見込み。(以上、食品)

夏の新商品の出荷時期で目標は達成しているが、ニーズの多様化で商品当たりの注文数は減っている。業況は例年並み。(紙関係)

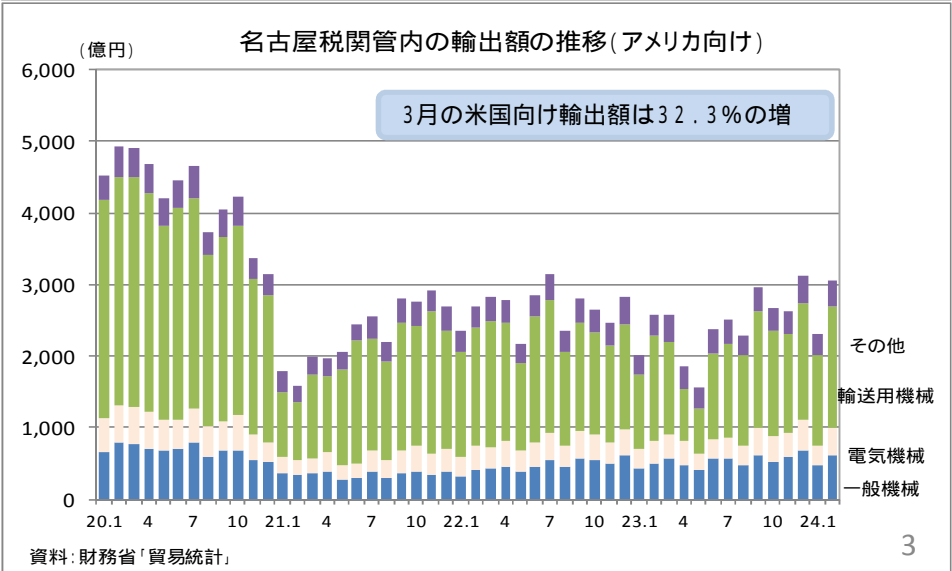
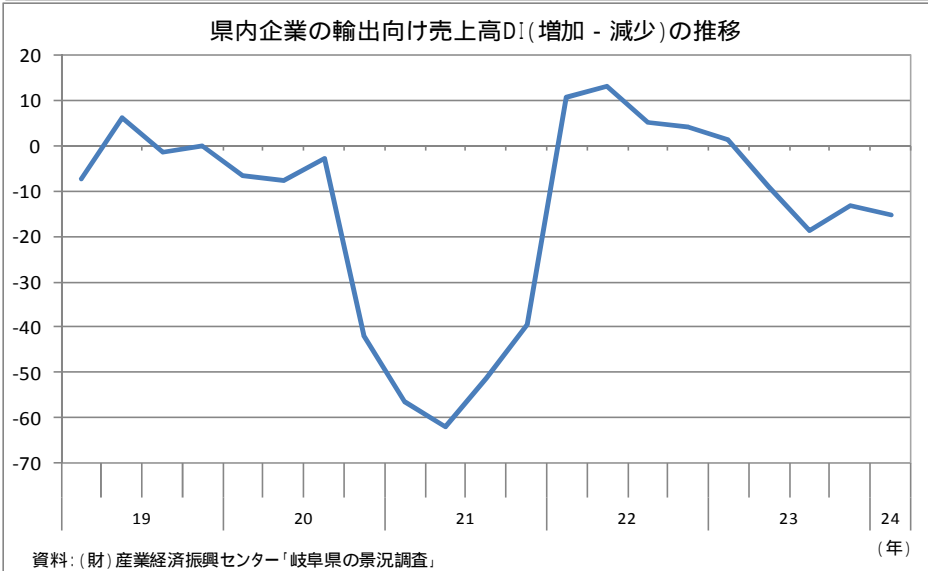
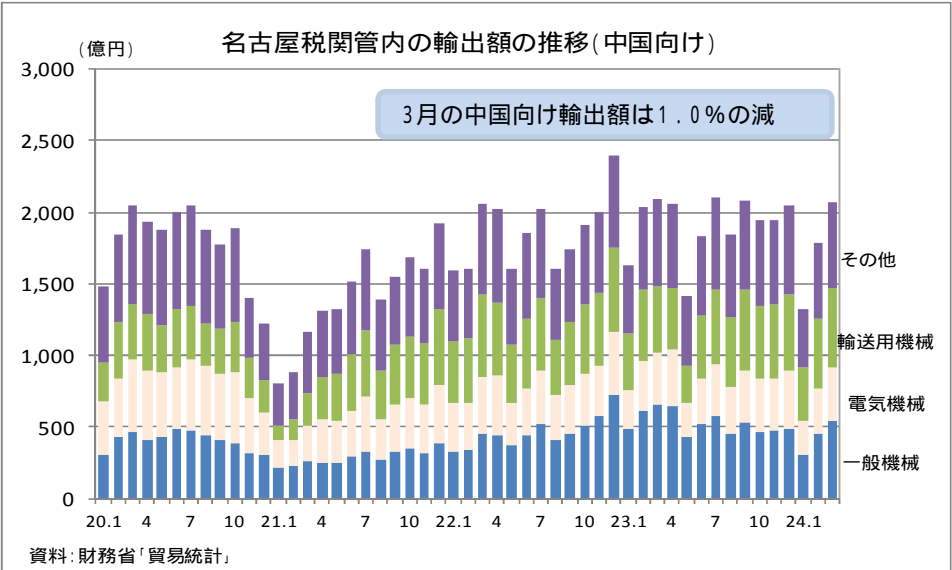
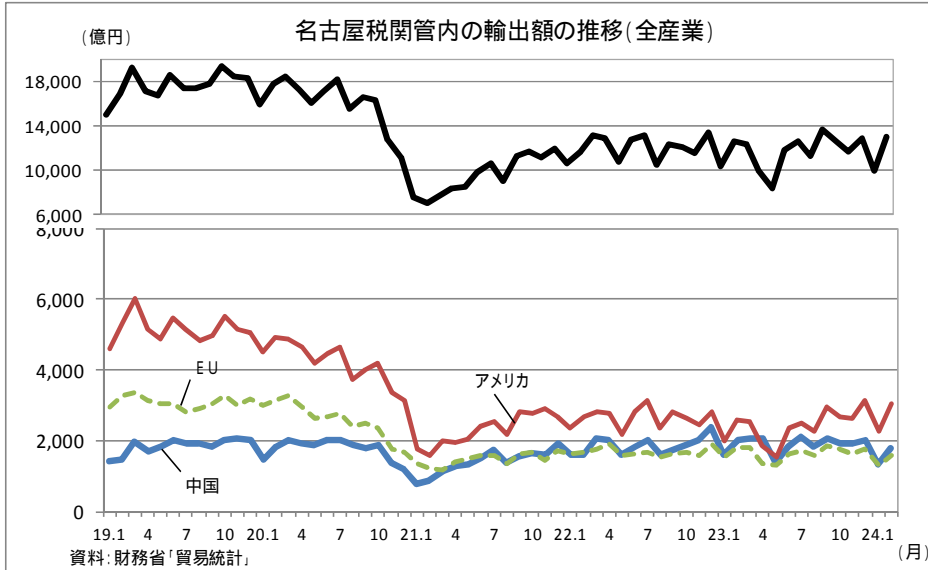
先月に引き続き好調を維持しており、フル操業の状態。残業と休日出勤で対応している。

今月はゴールデンウィークまでの納品依頼が多いために好調だが、来月以降はその反動が来ないか心配。(以上、木工)

# 輸出

3月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,179億円で前年同月比14.7%増。

中国向けの輸出は輸送機械が増加に転じたものの一般機械が引き続き前年同月比減となり5カ月連続のマイナスとなった。一方、アメリカ向けの輸出は主力全てが増加した結果、7カ月連続で前年同月比プラスとなっている。



## 円高による影響

円高の影響もあり、インドネシアに新工場を建設する予定である。

主要取引先が円高の影響を受けており、間接的に影響がある。

直接の影響はないが、産業界全体の空洞化が懸念される。(以上、自動車部品)

円高が若干戻しつつあるが、大勢に影響はない。

顧客は海外生産及び海外からの調達をますます加速させる見込み。(以上、生産用機械)

輸出入はないため、円高の影響はない。(金属製品)

円高は輸入原料価格を下げるのでメリットはあるが、輸出比率の高い顧客の売上は低下している。(プラスチック)

大豆や菜種油を輸入しているので円高はありがたい。

製品輸出がない反面、原料等輸入が多いため、円高は調達コスト面で有利に働いている。(以上、食品)

海外取引に係るドル建て分で影響がある。(刃物)

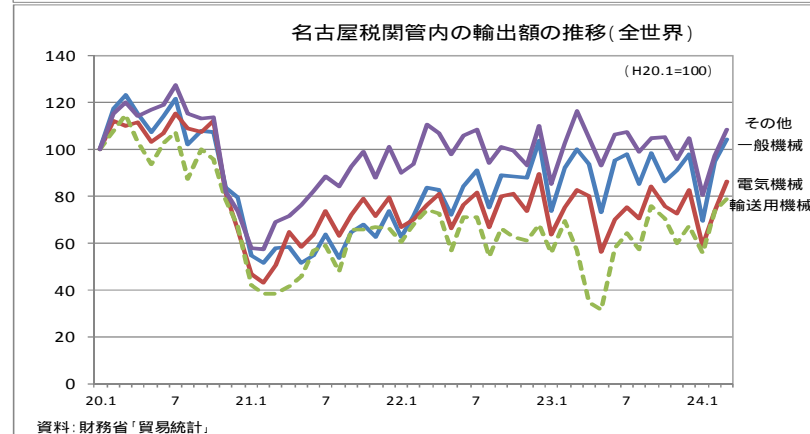
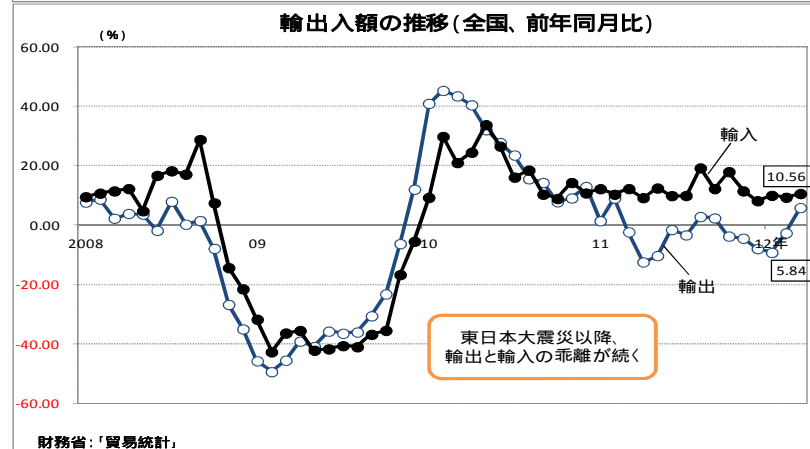
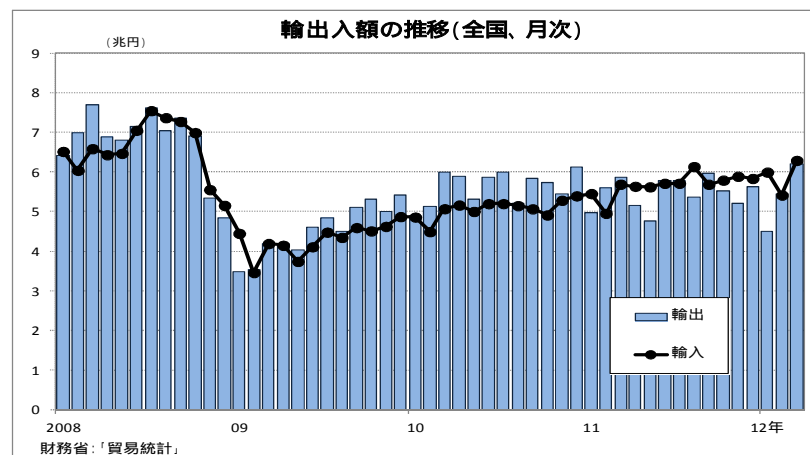
今のところ影響はない。(紙)

円高により、海外からの輸入コストは下がっているが、顧客もその点を十分に承知しており、値下げ要求が厳しい。(アパレル)

経営に与えるほどの影響はない。(木工)

円高の影響で企業の海外移転が進み、国内物流量が減少することを懸念している。(運輸業)

親会社の海外進出により、中小企業からの海外移転の相談が増えている。(金融機関)



## 原油価格高騰による影響

### 原油高の影響が既にある

燃料は重油を多く使用している。冬は特に部品乾燥で使用するため、かなり影響を受けている。(自動車部品)

樹脂、金属等の材料価格が高止まりしている。(電気機械)

アルミニウム等の原材料価格は原油高の影響も加わり、上昇傾向となってきた。(非鉄金属)

燃料のLPガスは、ここ4カ月で25%上昇しており、コスト増となっている。(金属製品)

燃料費の高騰が生産コストに大きく影響している。そろそろ値上げもやむを得ないと考えているが、市場を海外品に奪われる可能性もある。(陶磁器)

原油高については、水を沸かす際などに使っているため、コスト増になり、リストが減っている。

ボイラー用重油、電気料金ともにコストを押し上げているが、製品価格への転嫁は難しい。(以上、食品)

燃料費高騰の影響は大きく、かなり厳しい状況である。今は短期的な変動が大きく、サーチャージなどもお願いしづらい。(運輸業)

### 今後の影響が懸念される

コンテナ運賃が上がりそうな兆しがある。国内輸送にはまだその動きはない。(アパレル)

### 影響はない

取引先メーカーからの材料支給分が多いため直接的な影響はない。(自動車部品)

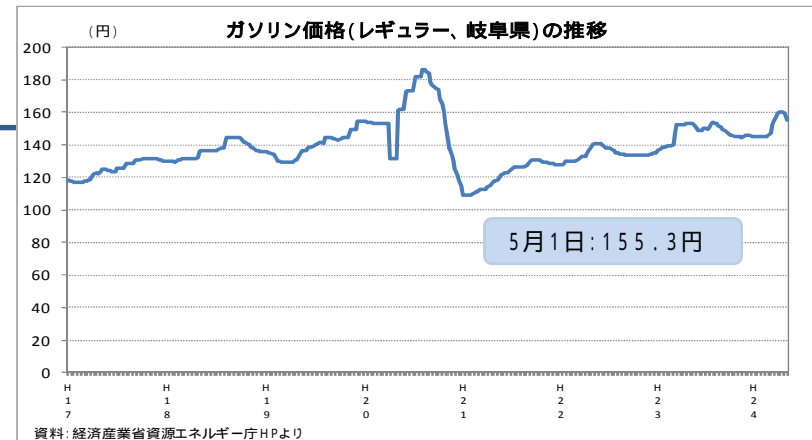
運送会社と一定金額の契約を結んでいるので、今のところ影響はない。(刃物)

影響は商用車のガソリン代くらい。運送会社から値上げの話もきていない。(木工)

今のところ影響はない。(金属製品)

今のところ影響はない。(プラスチック)

今のところ影響はない。(紙)

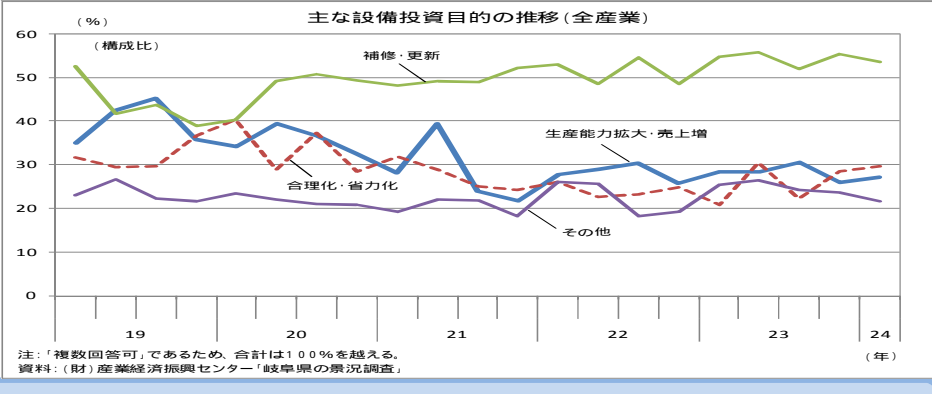
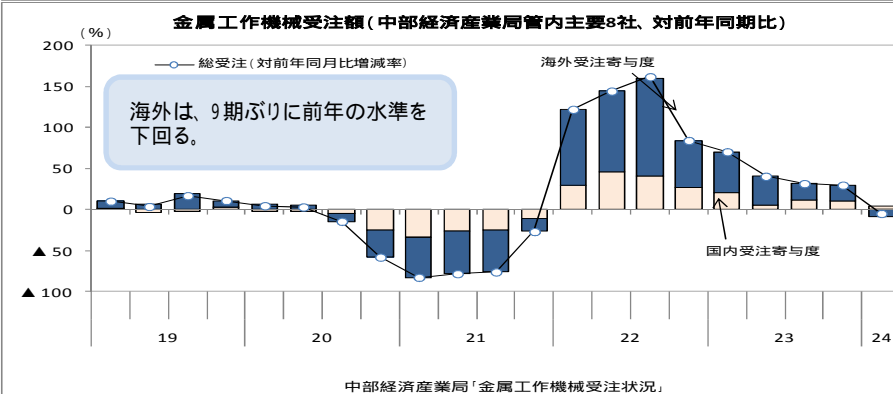
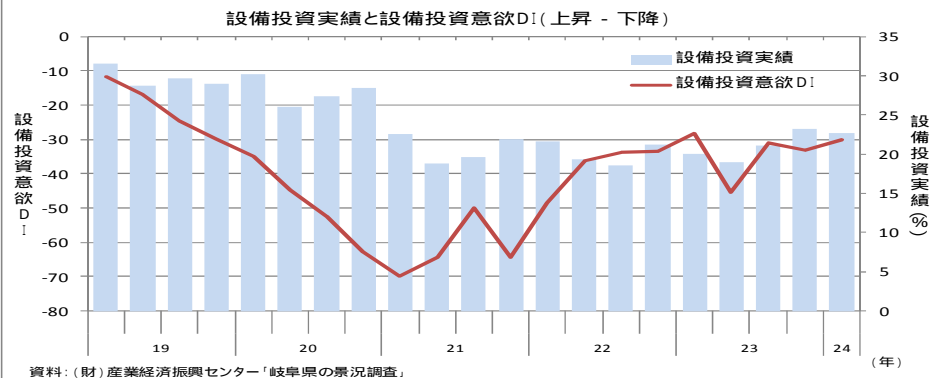
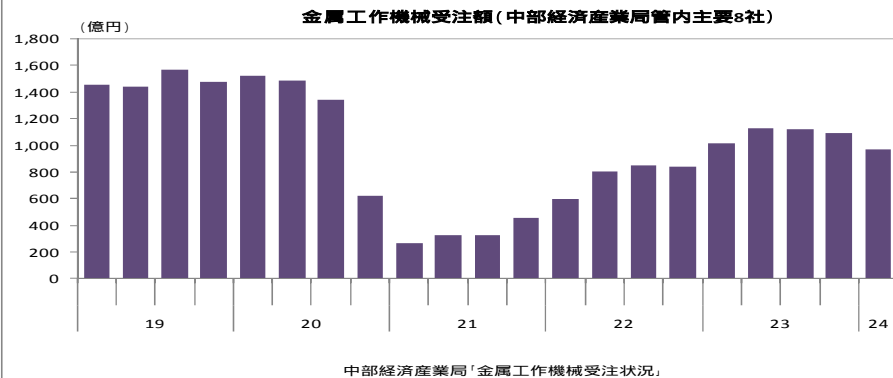




# 設備投資

生産用機械の受注額は、牽引役だった海外受注が9期ぶり前年を下回ったことで、マイナスに転じた。  
設備投資意欲DIは、改善傾向。

県内企業の設備投資は「補修・更新」といったやむを得ない理由が多く、「生産能力拡大・売上増」など、前向きな設備投資は回復の足取りが重い。



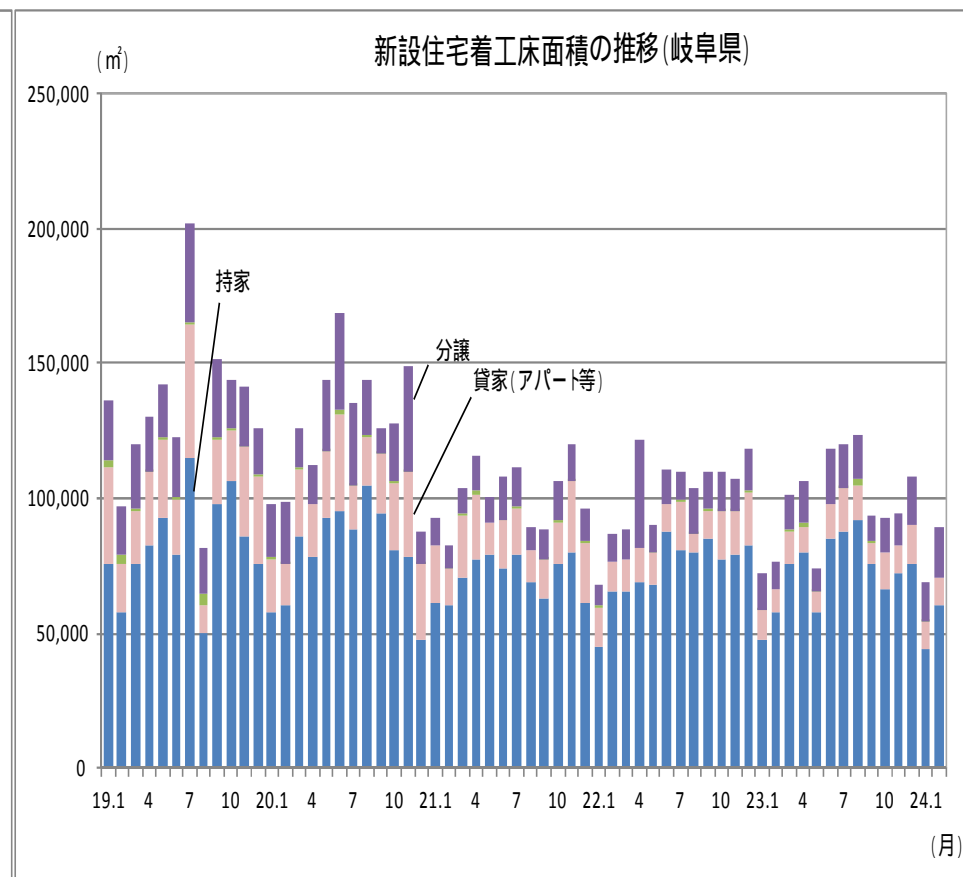
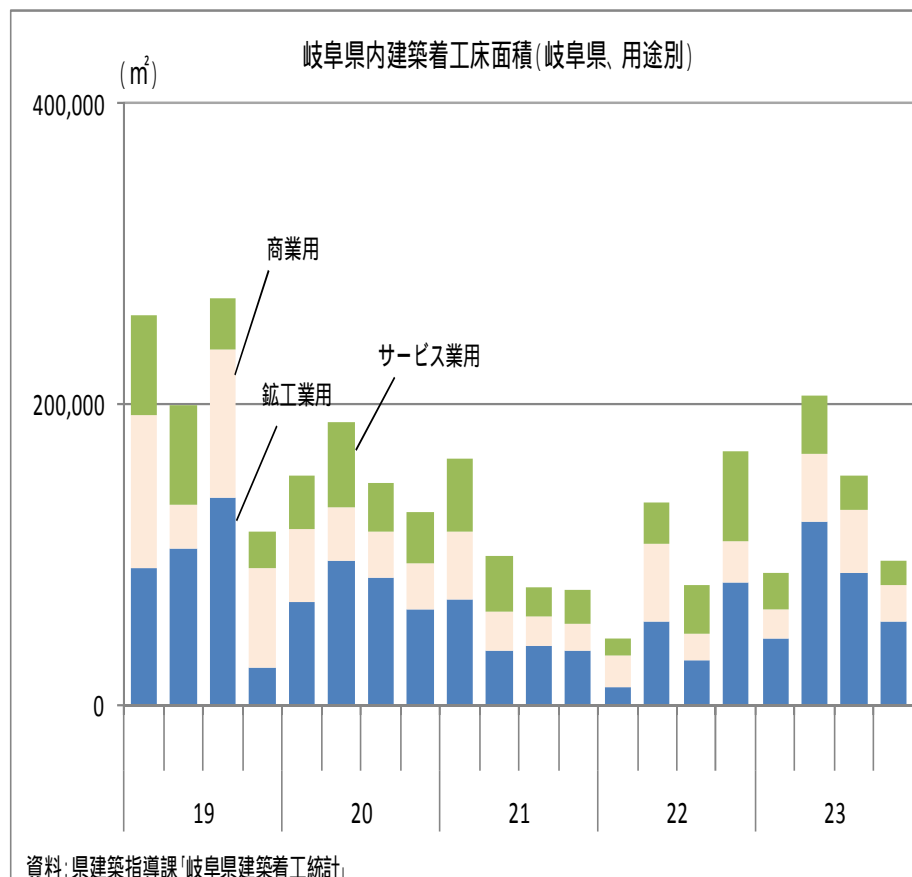
## 現場の動き

売上はピーク時の70%で横ばいが続いているが、先行きは不透明。  
国内物流機器の受注が夏から秋にかけて増加しリーマンショック前に近い水準を見込んでいる。国内投資復調の兆しを期待する。  
中国の建機業界は一段と冷え込み、油圧部品はピーク時の30%減となっている。  
工作機械は6月以降に海外向けの発注が増えそう。(以上、生産用機械)  
売上はピーク時の75%程度で横ばいが続いており、なかなか上向かない。しかし、引き合いは少し増えている感じがする。  
中国情勢の影響で回復時期は読めない。(以上、はん用機械)

## 住宅・建築投資

23年10 - 12月期の建築着工は、鉱工業、商業用、サービス業用がともに減少し、7期ぶりに前年同期比マイナスとなった。

2月の住宅着工は、持家が4.1%増、貸家が23.3%増となり、全体で前年同月比17.6%と6カ月ぶりの増加となった。



### 現場の動き

1月以降の受注は好調。5月以降も目標値達成の見込み。(建設会社)

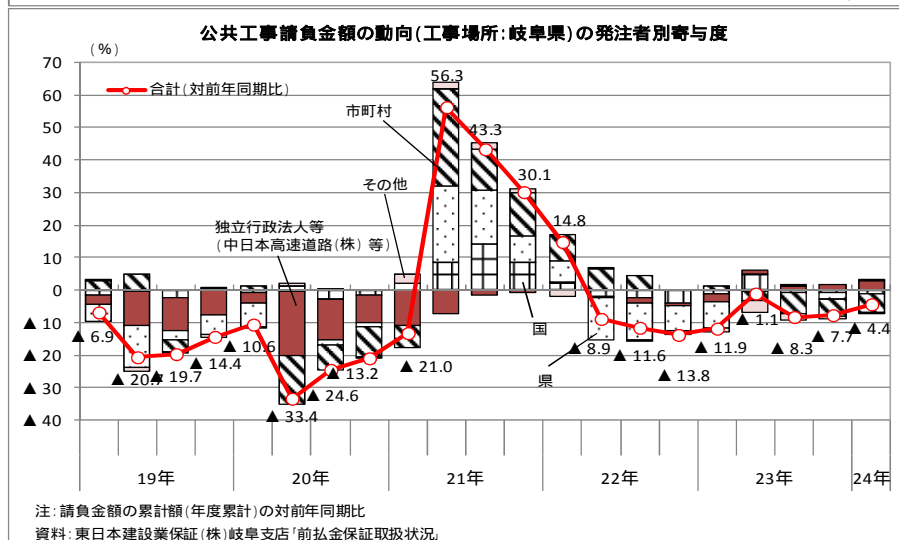
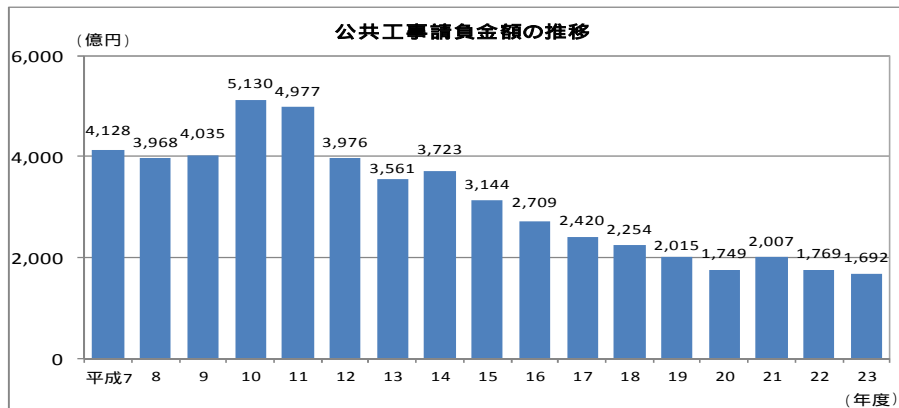
4月の住宅展示会では2日間で5600人の入場があり、住宅ニーズ復調の印象を受けた。(木材加工業者)



# 公共工事

23年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,692億円で過去最低。

24年1 - 3月期の公共工事請負金額は、前期に引き続いて市町村の発注が前年同期から大きく減少したため、対前年同期比4.4%減と8期連続で前年同期の水準を下回る。



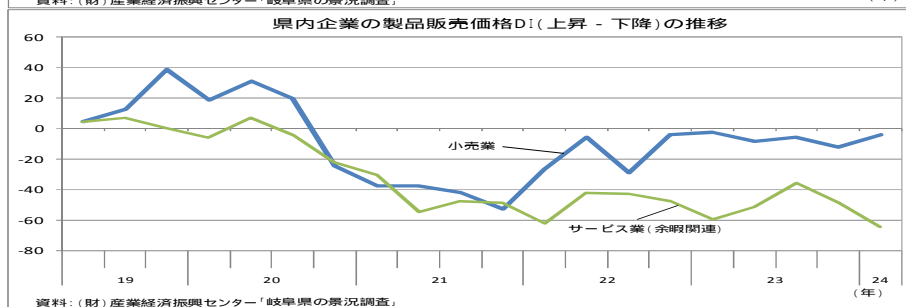
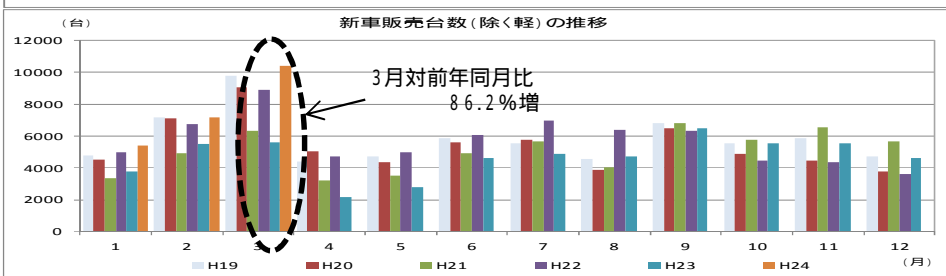
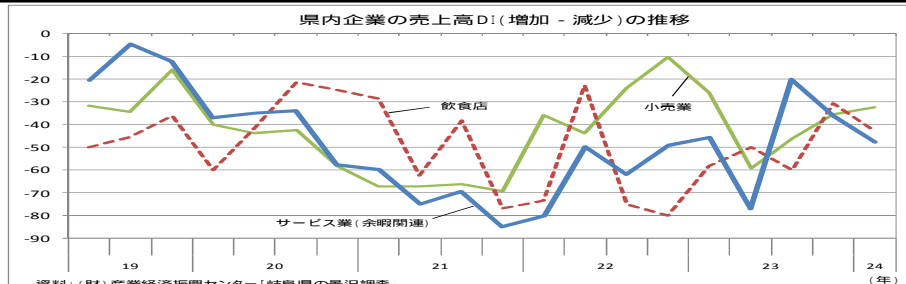
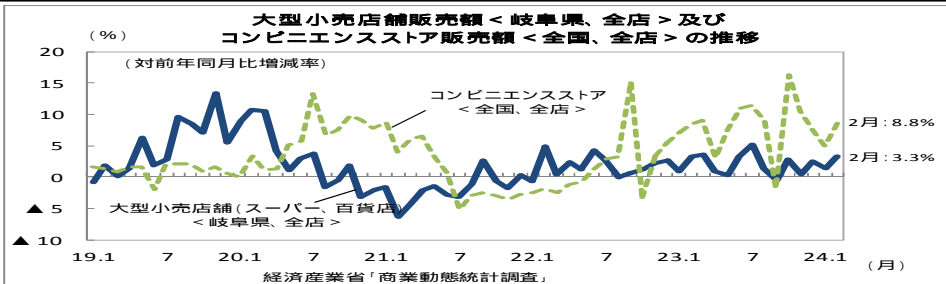
## 現場の動き

年度末にかけて、国の補正予算に伴う公共工事等の発注があった。しかしながら土木・建築資材及び原油価格が高騰しており、設計単価が改定されるまでは、厳しい状況にある。(業界団体)

# 個人消費(流通・小売)

2月の大型小売店販売額は、対前年同月比3.3%増と緩やかな回復傾向が続く。3月の自動車販売は前年同期比86.2%の増加。

平成24年第 四半期の小売業の売上は、引き続き緩やかな持ち直しの動きが見られる一方、販売価格は下降気味で推移している。



## 現場の動き

【大型店総括】気温の上昇により春物、初夏物の売上が伸びたこともあり、引き続き緩やかな上昇傾向にある。

【専門店総括】自動車販売は引き続き好調だが、客単価の減少が影響して、食料品や家電は売上が微減した。

【商店街総括】厳しい状況が続いているが、各種イベントによる人手が多く、売上増に結びついた店舗もあった。

【流通業総括】貨物量は増加傾向にあるが、燃料高騰により業績は厳しい。

4月に入って気温が上昇したことで、春物の衣料品についても売上が伸びてきた。

食料品については、震災特需の反動もあってやや減少しているが、他部門が大きく伸びている。(以上、大型小売店)

アクア、プリウスが今月も引き続き好調であり、来場・売上ともに約1割の増。

4月に入って、ゴルフクラブの売上が非常に好調。震災から1年たつてようやく「遊び」の部分に目が行くようになったのではないかと。

空気清浄機の売上がかなり落ちた。今年は花粉が少なかったことが要因だろう。

TVは前年の地デジ化の反動で大きく減少しているが、白物家電は好調。(以上、専門店)

「柳プラ楽市」が定着し、朝早くから人手が多いが、売上増には繋がっていない。今後に期待したい。(柳ヶ瀬商店街、婦人服)

陶器まつりやクラフトフェアがあり、人手がかなり多かったことで、売上増加に繋がった。(多治見市商店街、子供服)

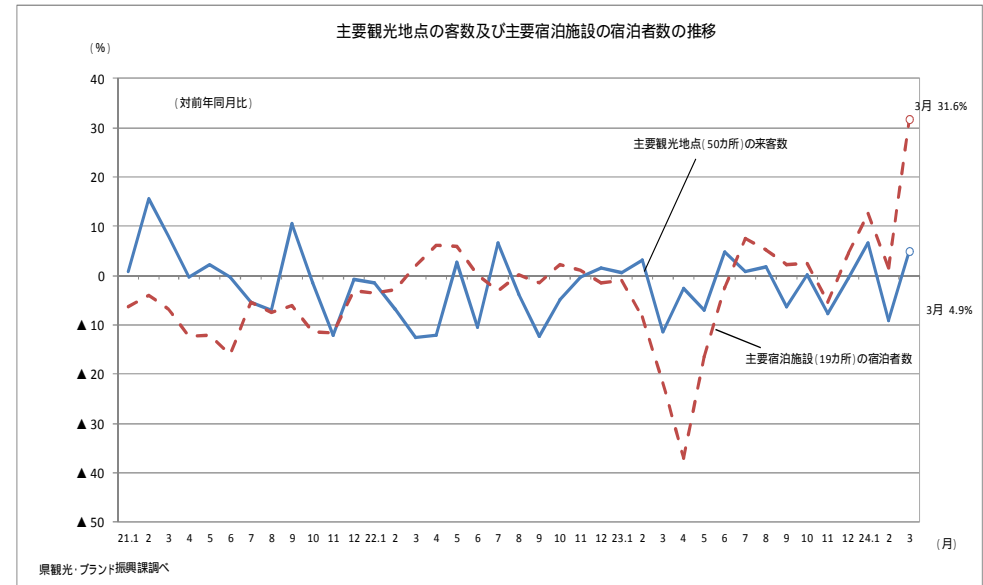
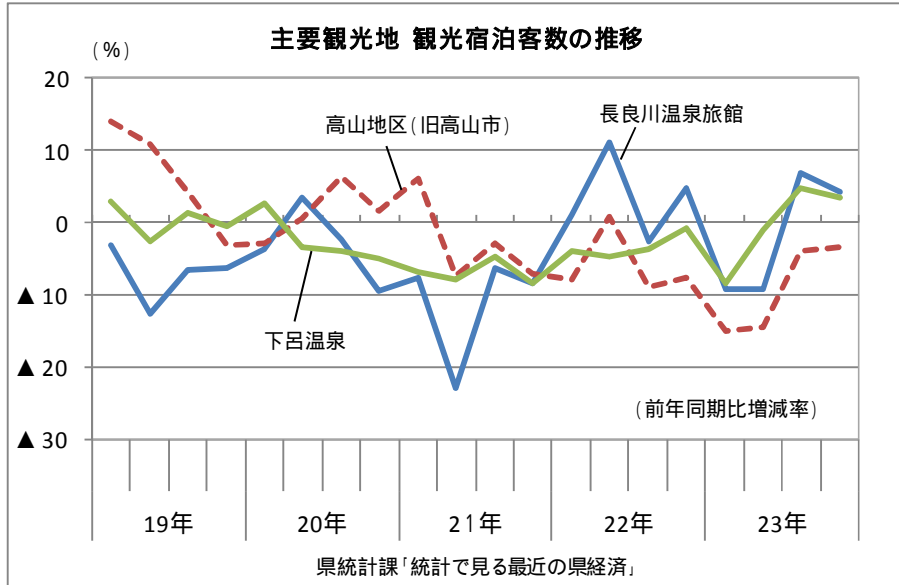
ここ数カ月は昨年同月を上回る月も出始め、少し明るい兆しが見える。(タクシー会社)

来館者は例年並みを維持している。グッズ売上は微増しており、客単価が上がっているのではないかと。(テーマパーク)

# 観光

平成23年第 四半期の宿泊客数は、長良川温泉が前年同期比4.2%増、高山地区(旧高山市)が3.5%減、下呂温泉3.6%増と全ての地域で回復傾向にある。

主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比4.9%増と2ヶ月ぶりに上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は、同31.6%増と4ヶ月連続で前年を上回った。



## 現場の動き

ゴールデンウィークにおける宿泊予約状況は、5/3, 4を中心に特に後半における宿泊予約が好調な模様。インバウンドは台湾や東南アジアなどを中心に回復の動き続いていることに加え、欧米でも復調の動きが見られる。(宿泊施設の総括)

4/30~5/2, 5/6の平日日曜は満室にならないが、その他の日はほぼ満室。

ゴールデンウィークは例年どおり5/3, 4が満室の状態。(以上、下呂市内の宿泊施設)

5/3, 4は満室だが、その他の日はまだ空きがある。

4/28~5/5の8日間、個人客を中心に全て正規料金で満室となった。(以上、高山市内の宿泊施設)

ゴールデンウィークの前半の動きは鈍いが、後半の動きは活発。(奥飛騨の宿泊施設)

インバウンドは例年以上に催行率が高く、とりわけ4月は顕著であった。(岐阜市内の宿泊施設)

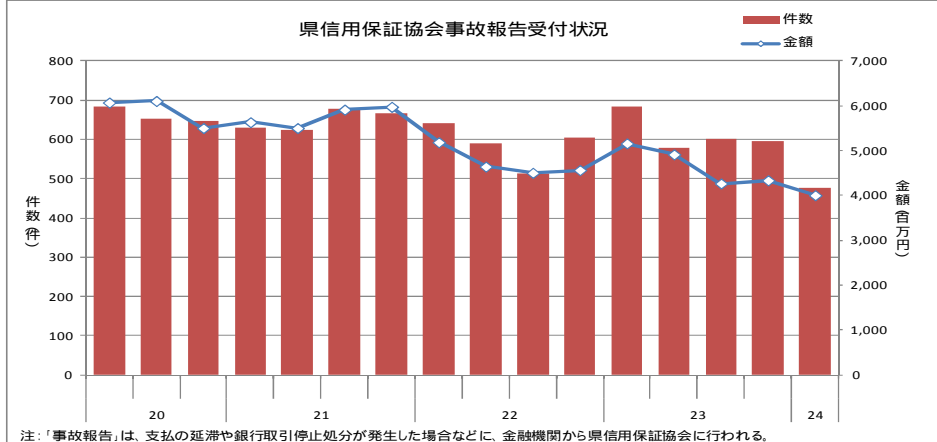
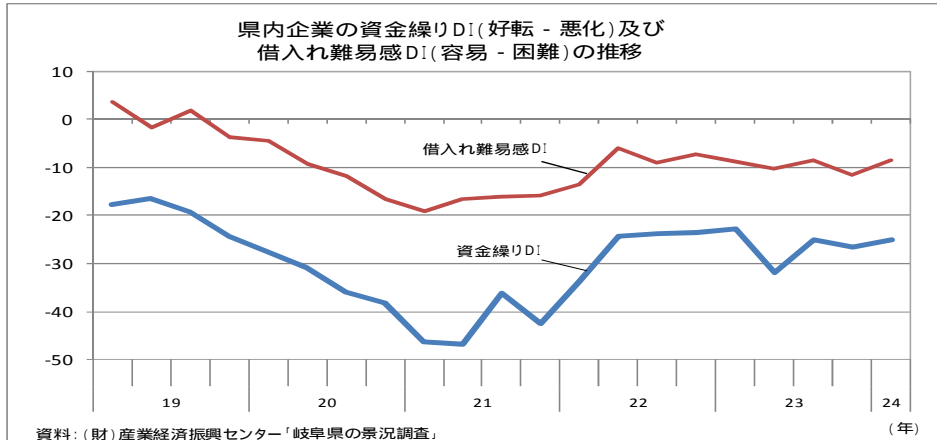
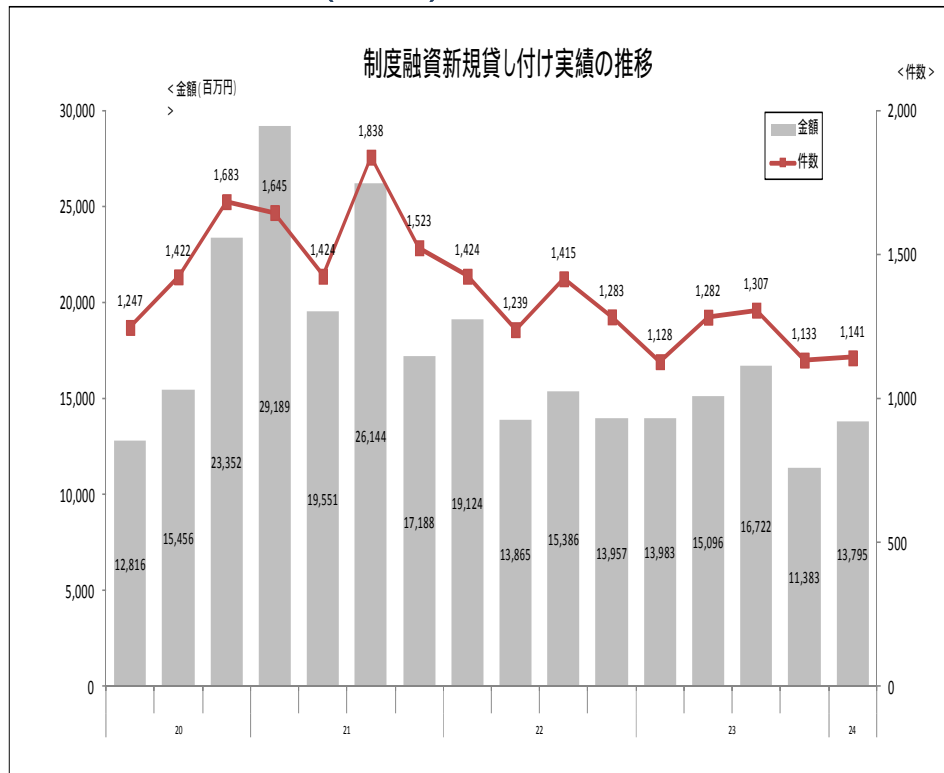
インバウンドは震災前の水準まで回復。欧米も復調傾向。(高山市内の宿泊施設)

インバウンドは震災前の水準まで戻ってきた。とりわけ、台湾・東南アジア等の動きが活発。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。  
足元の資金繰り及び借入難易感は、横ばい傾向にある。

## < 新規融資実績(月別) >



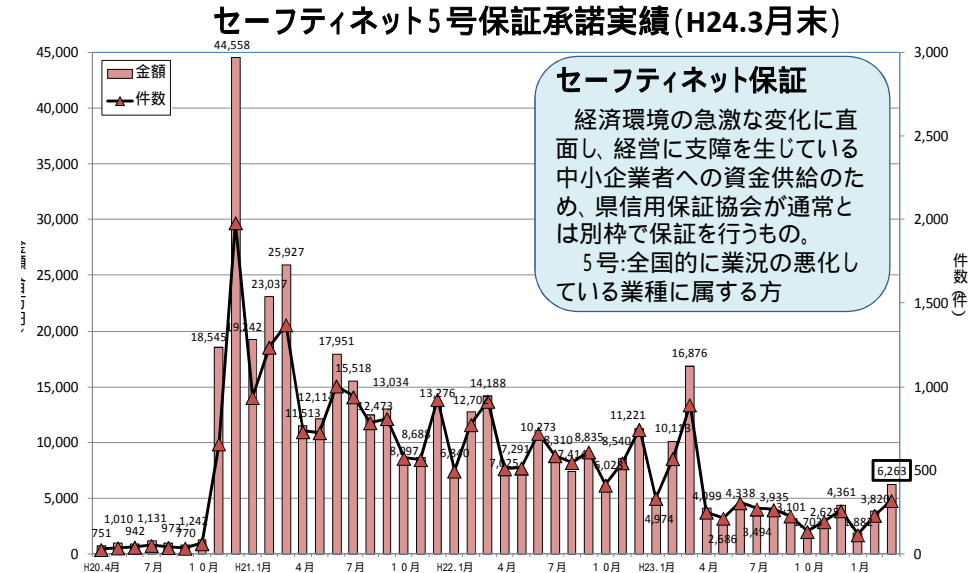
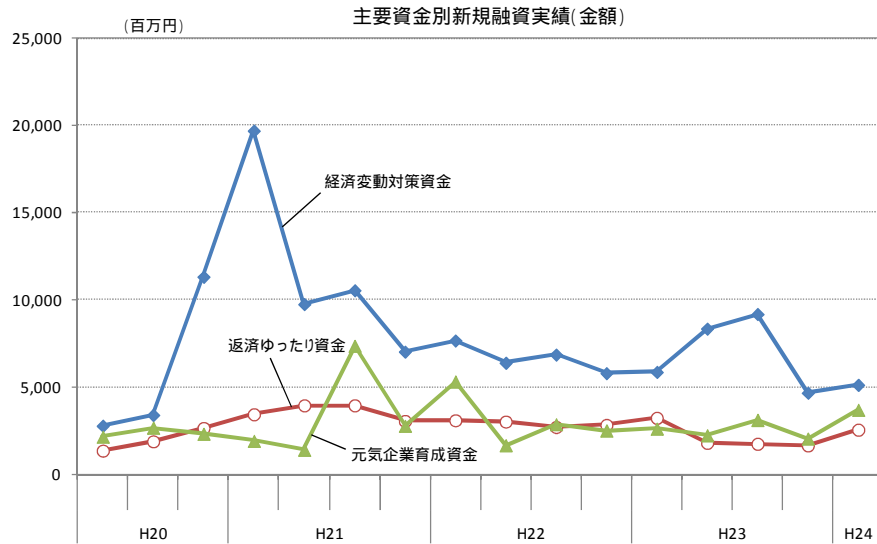
## 現場の動き

4月中の融資件数も相変わらず低調である。  
昨年度の銀行全体の融資残高は増えたが、大企業と住宅ローンが中心で、中小企業向けの融資残高は減少している。  
企業には手元資金が十分あるように思われ、これ以上お金を必要としていない状況である。  
資金需要はほとんどなく、資金繰り難からの運転資金の需要のみ。設備投資したところほど厳しい状況にある。  
ここ数カ月DIは上がりつつあるが、中長期的な景気回復が見込めない中で資金需要はない。(以上、金融機関)

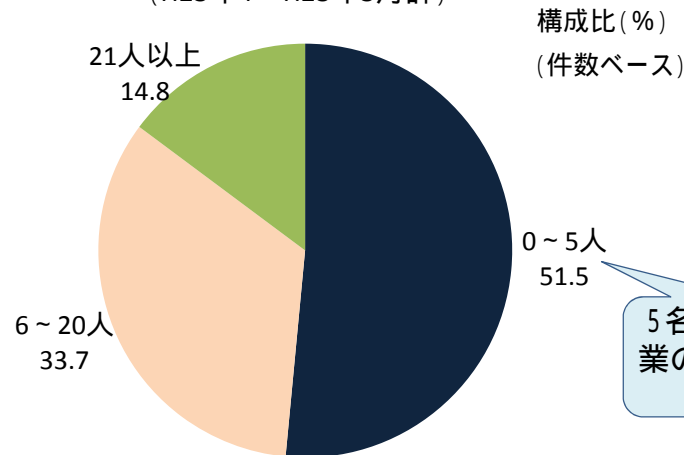
## 資金繰り - 2

資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。

引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

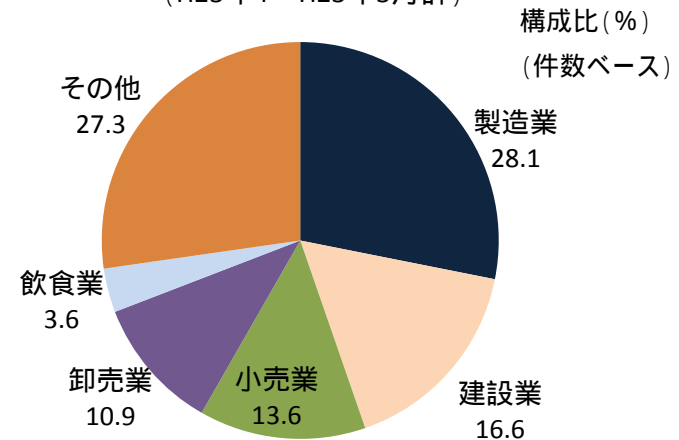


県制度融資 利用企業規模別割合 (H23年4 - H23年3月計)



5名以下の零細企業の利用が半分以上を占める

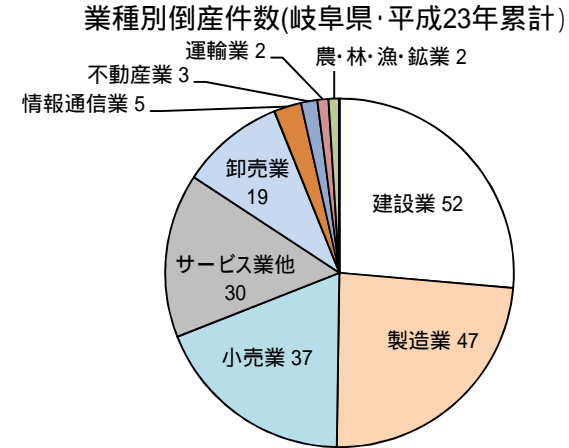
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H23年4 - H23年3月計)



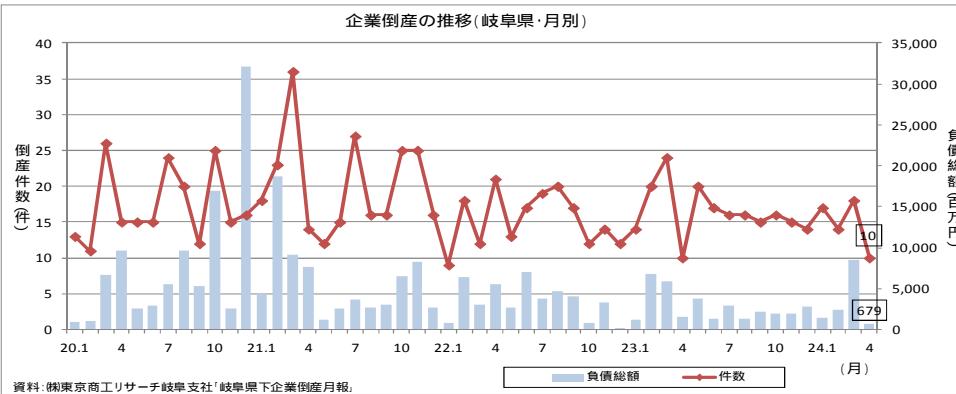
# 倒産

平成24年4月の倒産件数は10件となり、過去20年間で4月単月としては最低水準となった。  
 平成23年の倒産件数は197件となり、前年から13件増加。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

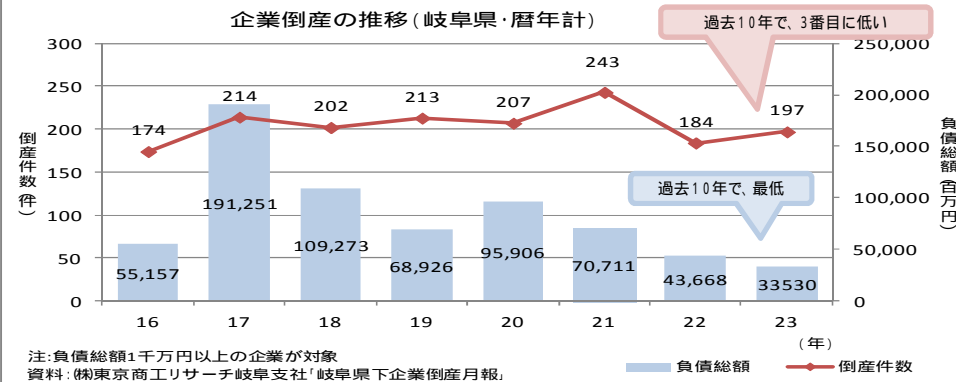
業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



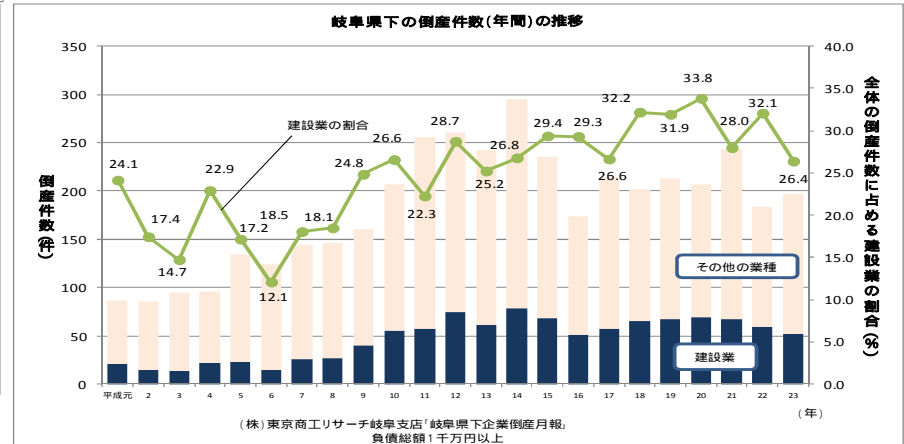
東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」  
 負債総額1千万円以上



資料: (株)東京商工リサーチ岐阜支社「岐阜県下企業倒産月報」



注:負債総額1千万円以上の企業が対象  
 資料: (株)東京商工リサーチ岐阜支社「岐阜県下企業倒産月報」



(株)東京商工リサーチ岐阜支社「岐阜県下企業倒産月報」  
 負債総額1千万円以上

## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

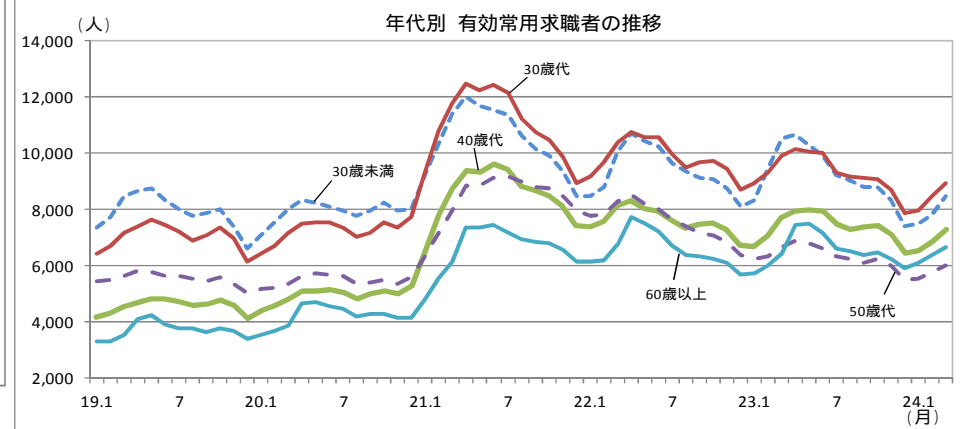
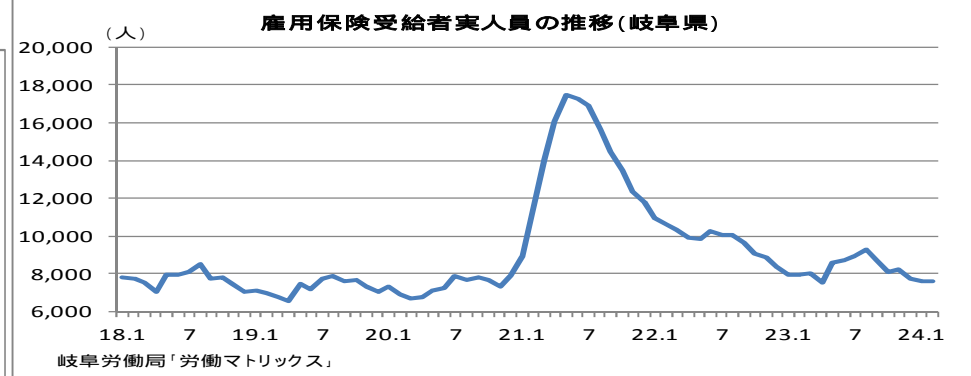
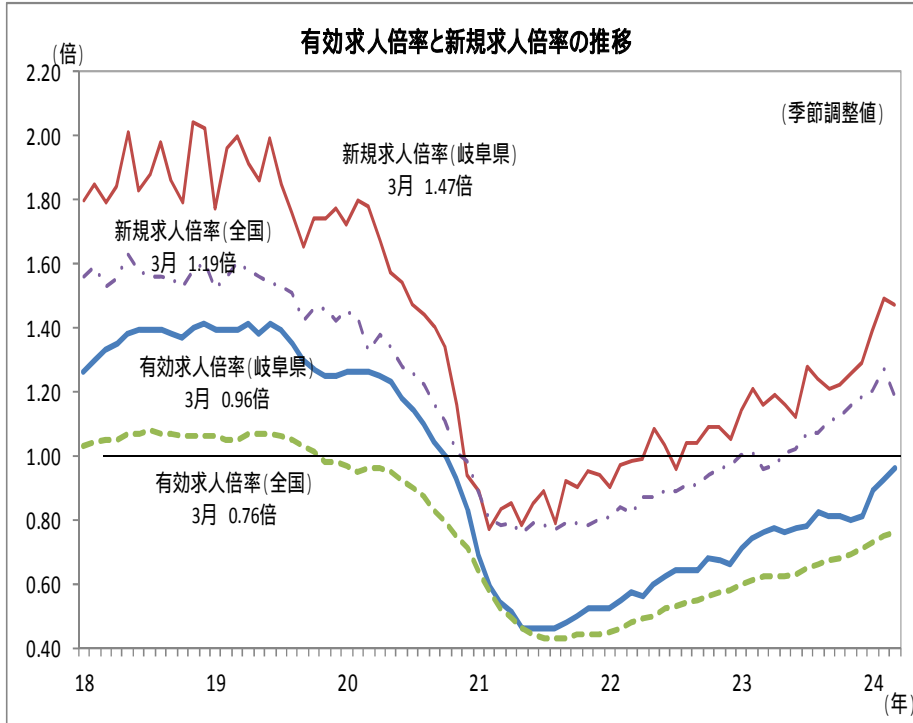
4月の県内倒産件数は10件と、前月比8件減少、前年同月比同数で、過去20年間で4月単月としては最低水準となった。復調が続いている製造業を中心に減少している。  
 しかし、金融機関は事業再生が難しい企業への与信見直しを進めて貸倒引当金の積み増しをしており、今後は企業規模に関わらず業績改善が進んでいない企業の資金調達はさらに厳しくなることが懸念される。



# 雇用

3月の有効求人倍率は0.96倍と前月から0.04ポイント上昇。また、新規求人倍率は1.47倍と前月から0.02ポイント下降。

2月の雇用保険受給者人員は7,574人と3カ月連続の減少となった。



## 現場の動き

製造業を中心に人手不足感が広がっており、非正規社員や正社員の残業が増加傾向にある。しかし、雇用のミスマッチの発生や先行き不透明な状況を反映して、正規雇用は厳しい傾向にある。(聞き取り総括)

増産対応を目的に、通常3ヵ月の新入生現場実習を6ヵ月実施する(即戦力育成のため)。

人手不足感が続いている。工場はフル稼働しており、残業や派遣社員によって対応している状況である。

求めている人材と応募される方とのミスマッチが激しく採用に至らない。工員ではなく企画系の能力が高い人材が地元にはいない。

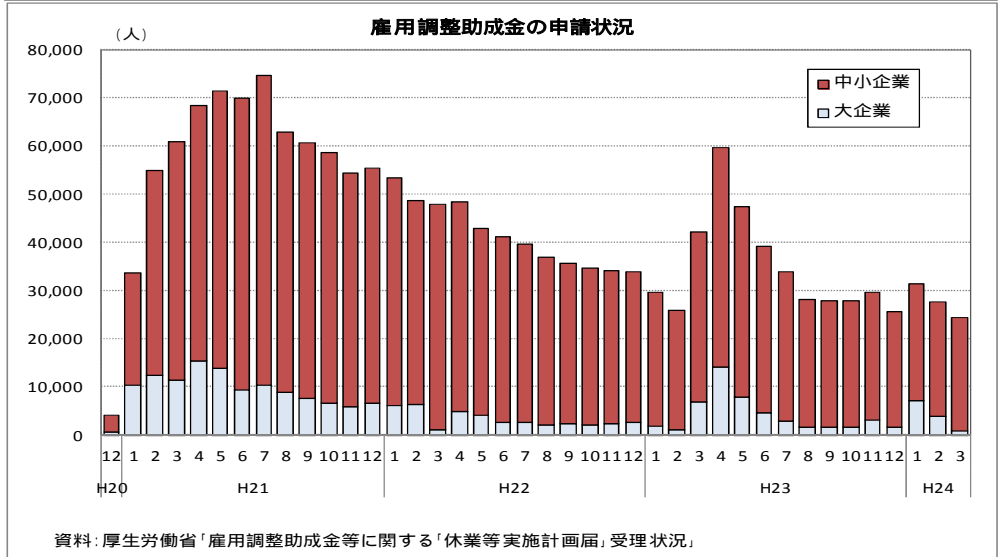
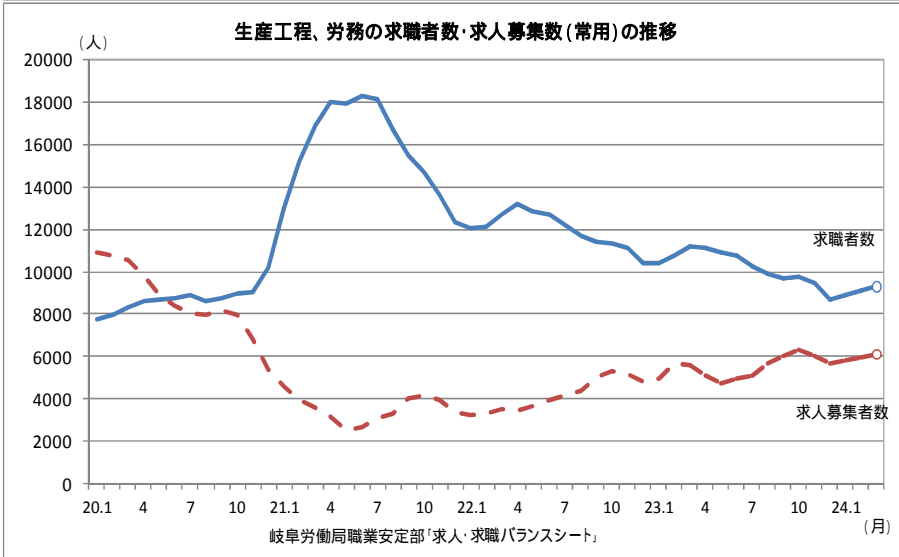
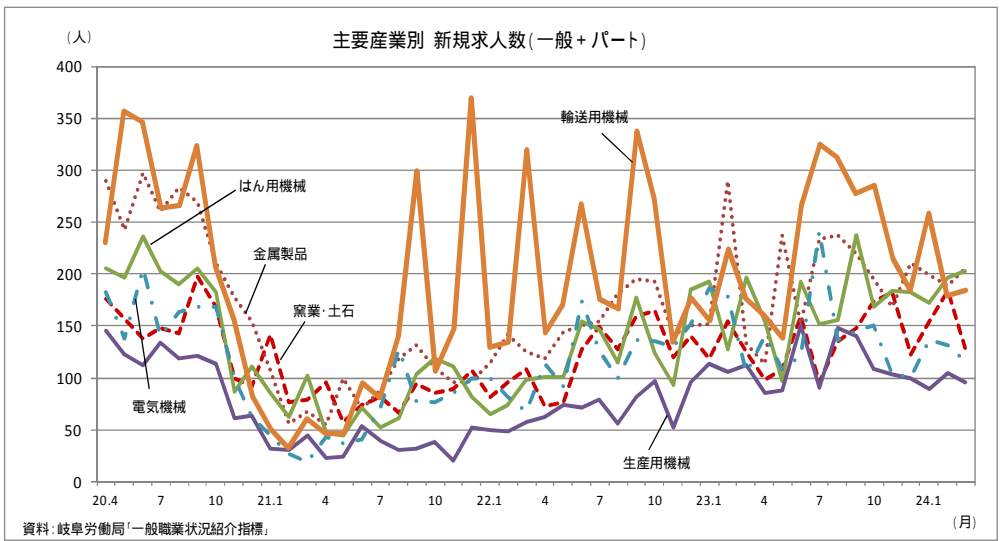
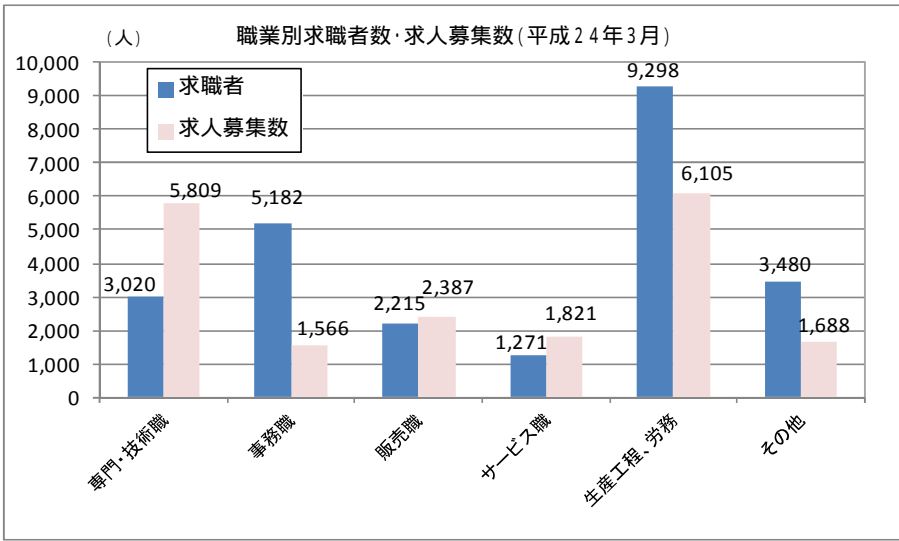
見通しが不透明な中では、正社員の雇用増は難しい。(以上、製造業)

職業訓練を受けて資格を取っても、未経験を理由に雇用されない例もあり、安定雇用は厳しい。(人材チャレンジセンター)

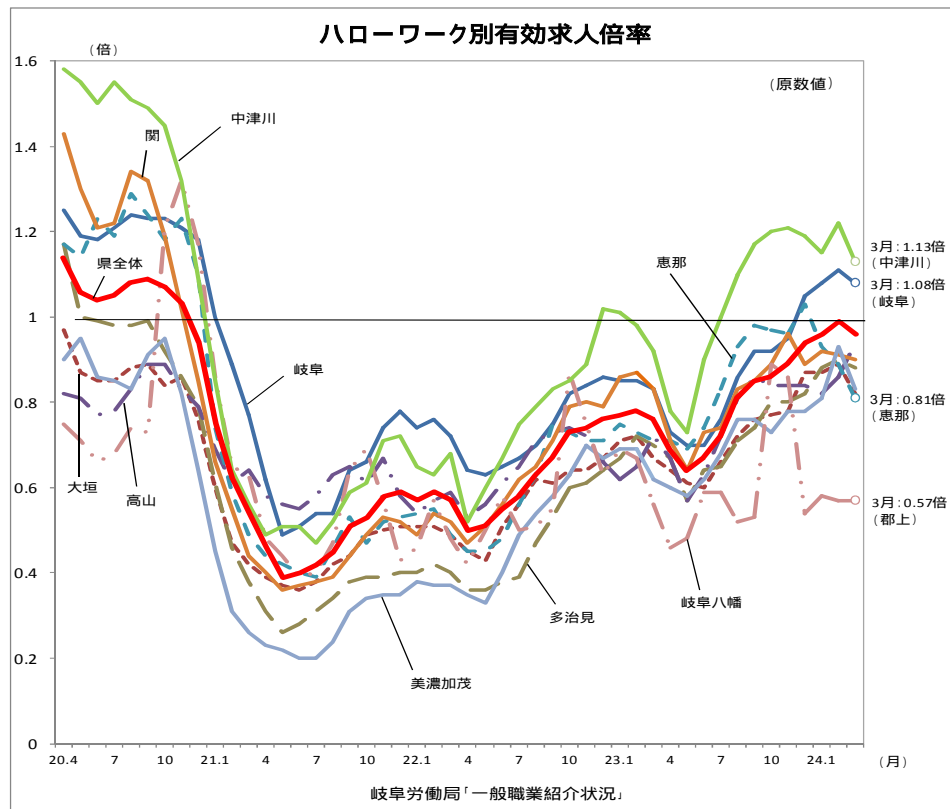
4月は例年、派遣会社の枠を取りあう形になるが、今年は少ない状況。企業は派遣の枠を縮小させていると思われる。(派遣会社) 14

# 雇用(職業別)

「生産工程・労務」における求職者数と求人募集数のギャップは、求職者数が減少傾向で推移する一方、求人数は増加傾向で推移しており両者の差は徐々に縮小している。  
 新規求人は輸送用機械の求人が他の業種に比べ、増減が大きい。  
 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、23年5月以降減少傾向にある。



## 雇用(地域別)



### <ハローワーク岐阜>

求人数は増加。求職者数は減少。  
来所者数はほぼ横ばい。  
雇用調整助成金は横ばい。  
雇用保険受給者は微減傾向。

### <ハローワーク大垣>

求人数、求職者数ともにほぼ横ばい。  
雇用調整助成金の利用は減少が続いている。  
雇用保険受給者は増加している。

### <ハローワーク関>

求人数は横ばい、求職者数は増加。  
雇用調整助成金は横ばいが続く。  
雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

求人数は減少、求職者数は横ばいが続いている。  
雇用調整助成金の利用件数は横ばいが続く。  
雇用保険受給者は増加。

### <ハローワーク多治見>

求人数は増加、求職者数は横ばい。雇用保険受給者数は増加した。  
雇用調整助成金については、減少に転じた。

### <ハローワーク恵那>

求人者数、求職者数ともに微減。  
雇用保険受給者数は微増傾向。雇用調整助成金は先月に続いて減少。

### <ハローワーク中津川>

求人数、求職者数ともに横ばい。  
雇用調整助成金は横ばいが続いており、雇用保険受給者数については微増に転じた。

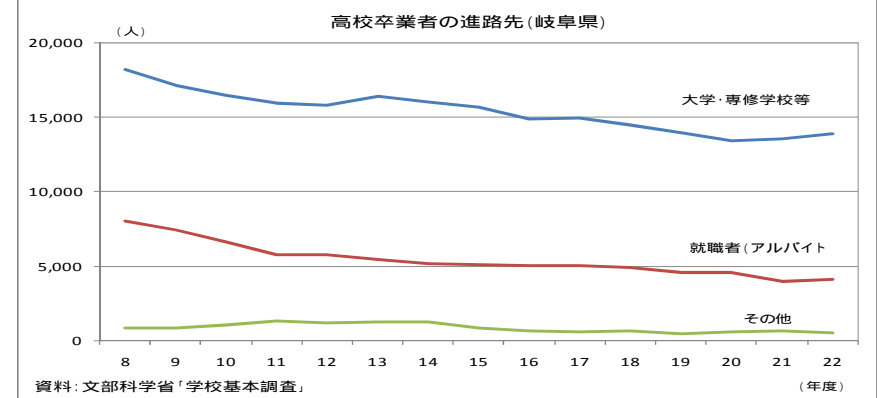
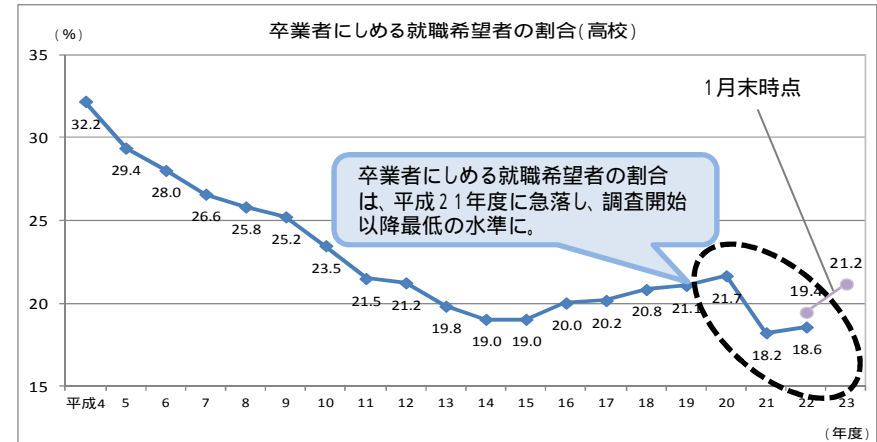
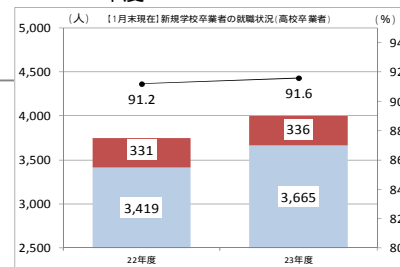
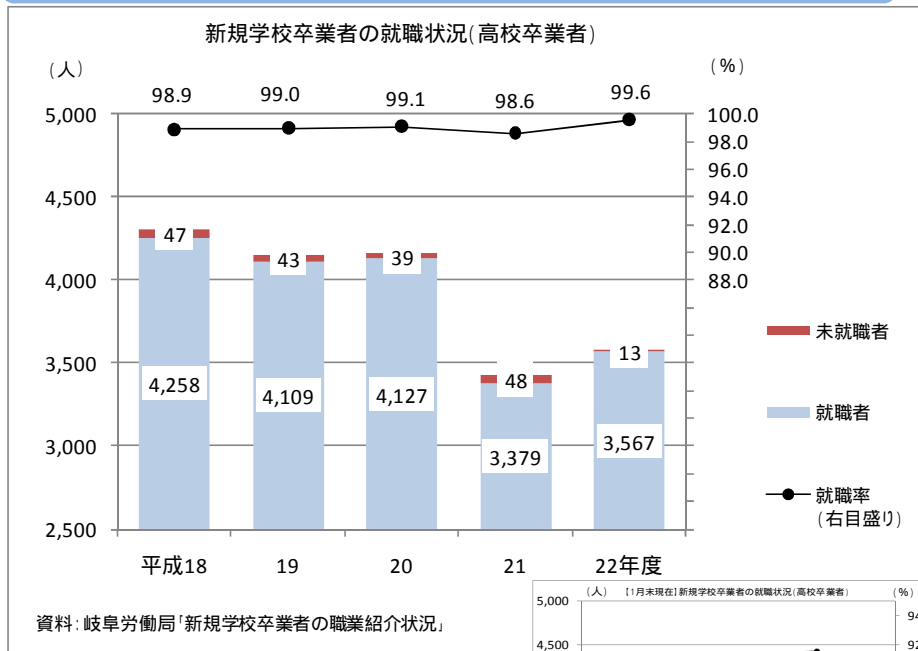
### <ハローワーク高山>

求人数は増加、求職者数は横ばい。雇用調整助成金、雇用保険受給者数ともに減少した。

# 雇用(高校新卒者の就職)

高校卒業者の就職率は改善傾向。また、就職希望者割合の低下には歯止めがかかったが、依然として低い水準で推移。

平成22年度の未就職者数は13人、就職率は99.6%。  
→雇用環境は改善している模様。

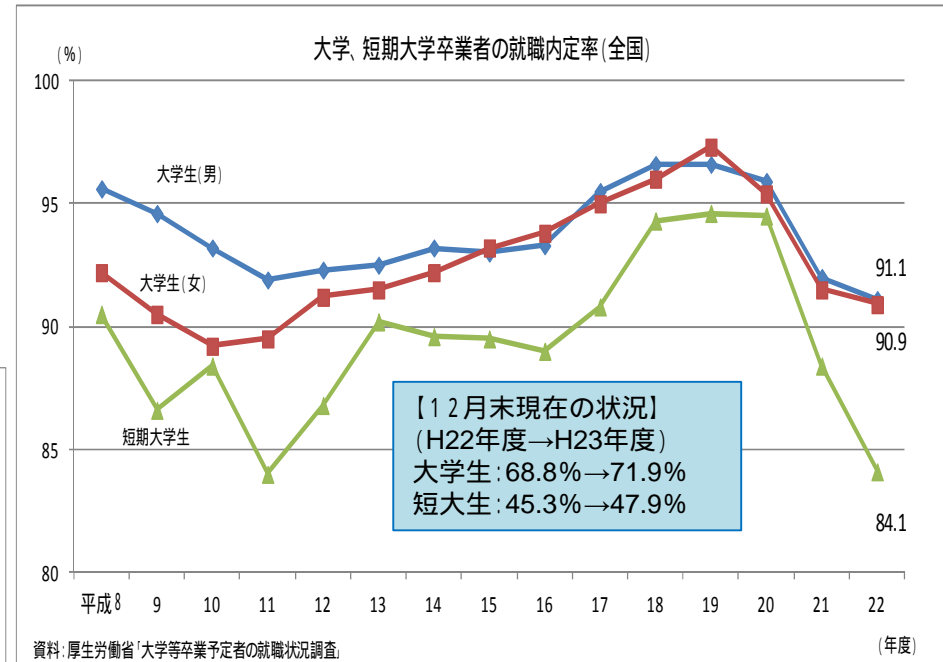
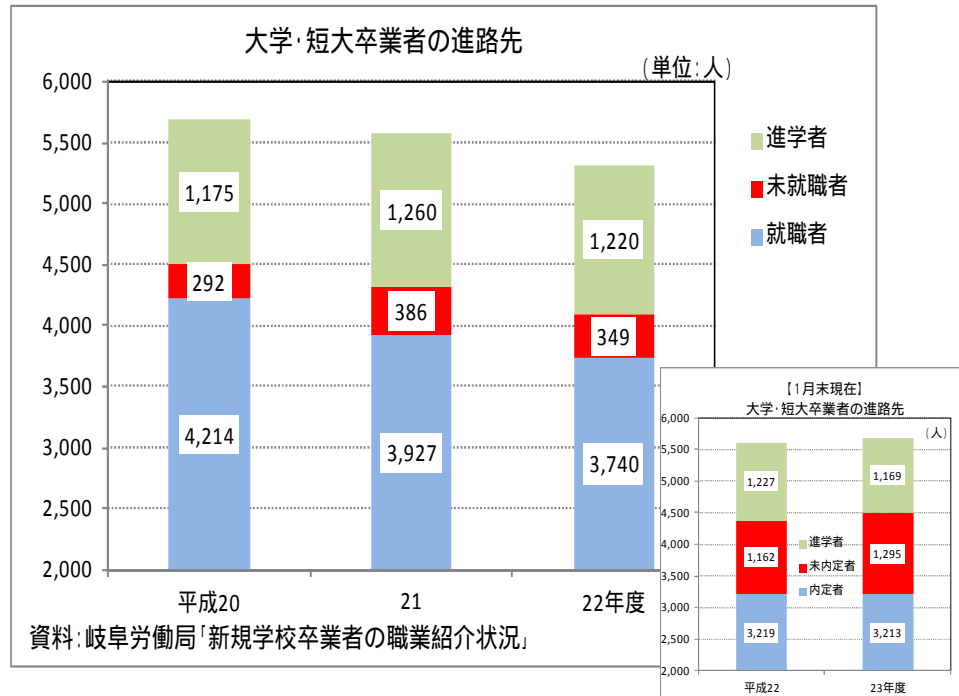


## 現場の動き

- <ハローワーク大垣、高山、恵那、郡上>  
2012年卒業者は内定率100%となった。
- <ハローワーク岐阜、多治見、美濃加茂、中津川>  
2012年卒業者の内定率は、上昇している。
- <ハローワーク関>  
2012年卒業者の内定率は、昨年と同程度。

## 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

大学・短大卒業者の内定率については、一部下げ止まりの動きが見られるものの、短期大学生を中心に依然として厳しい状況にある。



### 【岐阜県内の主な大学】

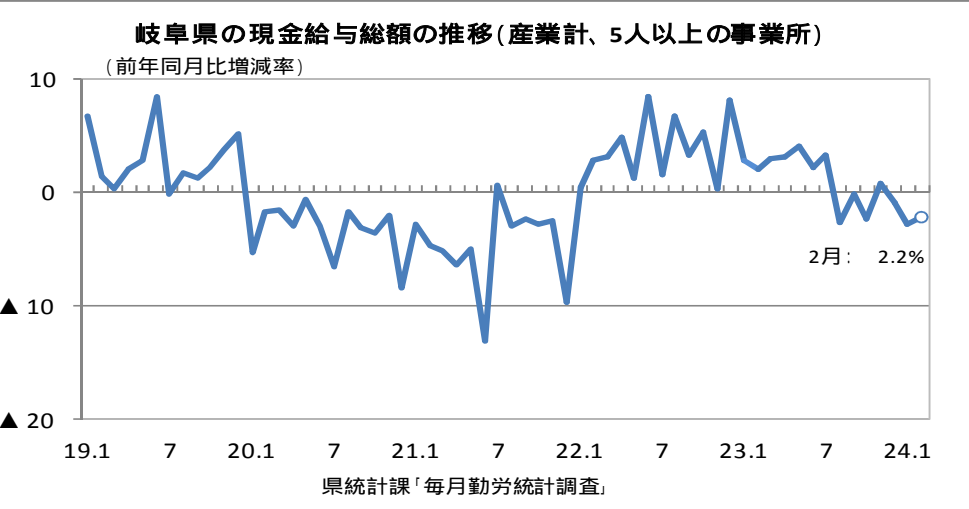
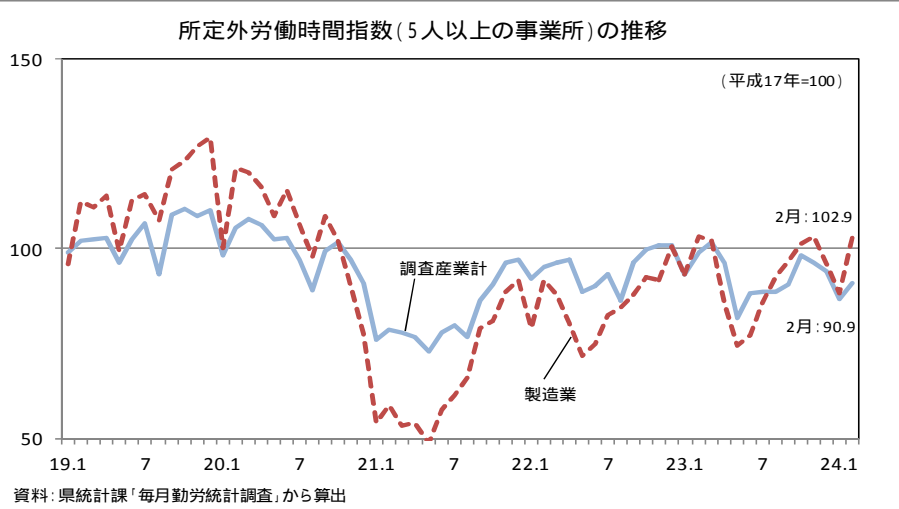
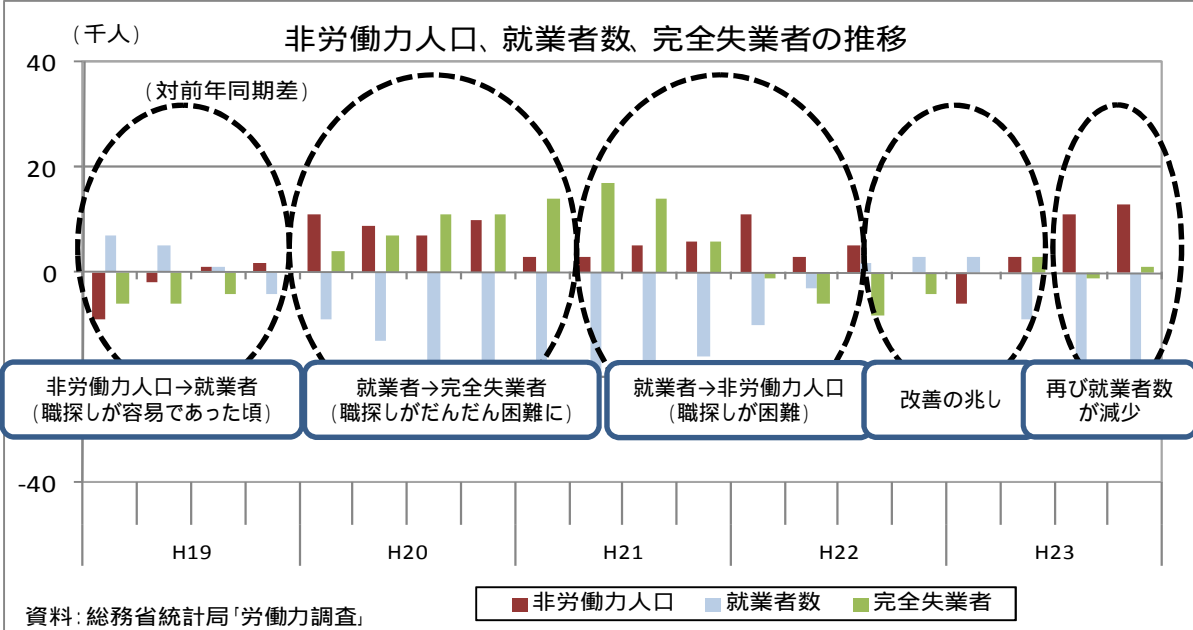
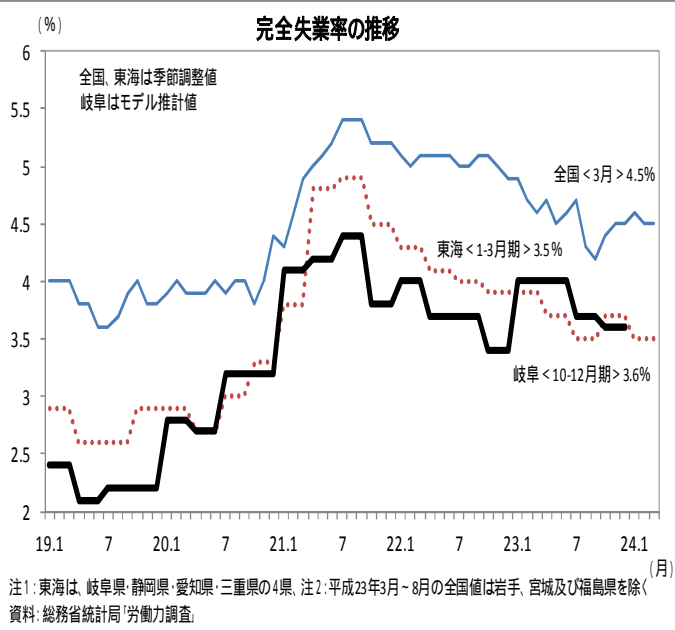
- ・2012年卒の最新(4月末)の内定率は、大学卒、大学院卒ともに96%程度となり、昨年度並みの水準となった。
- ・卒業生の内定率は、90%程度(母数は卒業生全体)で、昨年を若干上回る。
- ・卒業生について就職率は例年並みの92%の見込み。
- ・新4年生向けの求人は例年よりやや増加。

### 【愛知県内の主な大学】

- ・卒業生の内定率は70%代後半(母数は卒業生)となる見込みであり、昨年度(72.1%)より改善している。
- ・卒業生の内定率は93.8%であり、昨年度より1.7ポイント改善している。
- ・就職が決まらないことが理由で留年する学生もいる。
- ・新4年生向けの求人は一昨年度から微増傾向が続いている。

# 雇用(完全失業率)

平成23年第 四半期の完全失業率は3.6%と前期より0.1ポイント改善。  
 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第 四半期以降は就業者数が前年同期を上回るなど、改善の兆しも見られた。しかし、直近は再び減少局面に。





## < 経済・雇用の現状（総括） >

製造業全体では、引き続き、エコカー補助金等の好影響が出ている自動車産業を中心に受注量、出荷量が増加しており、回復の動きが広がっている。はん用機械や生産用機械においては、中国の金融緩和策が出されたものの中国向け輸出が依然低迷しており、横ばい状態。

円高については、海外での現地生産や海外調達を進める企業が増加しており、それに伴うコストダウン要求も一部に出ている他、受注量の減少も懸念される。原油価格の高騰については、燃料代や原材料の価格が上昇することで収益を圧迫するケースが現れている。

地場産業は、陶磁器や食品を中心に原材料価格高騰の影響を受けているものの、木工製造で生産が追いつかない状況が続いている等、緩やかな持ち直しの動きが見られる。

小売については、大型店を中心に持ち直しの動きが続いているが、客単価減少の影響を受ける専門店やイベントの集客が売上に繋がらない商店街などもあり、景況感に差が現れている。

観光は、5 / 3, 4を中心にGWの後半の宿泊予約が好調。インバウンドは台湾・東南アジアなどを中心に回復の動きが続いていることに加え、欧米も復調の動きがある。

雇用面では、製造業を中心に人手不足感が広がっており、残業や非正規社員数が増加傾向にある。しかし、雇用のミスマッチの発生や先行き不透明な状況を反映して、正規雇用での採用は厳しい。雇用調整助成金については、4月をピークに収束に向かっている。

企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。